

稲山会 通信

第 10 号

2004年6月1日発行

発行人：新井昭夫 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

2003 年度活動報告（前期）

早大山の会前幹事長 佐々木直之（理工院2）

2003年は、本格的な登山活動を再開するためのスタートの年であったと思います。早稲田大学では多くのアウトドアサークルがひしめき合っていますが、その中でサークルを活性化していくためには、専門性を高めることが何よりも重要であると考え、「夏の長期縦走」、「冬山での活動」という二大目標を掲げました。とは言いましても、現役生のほとんどは3泊以上の登山を経験したことがなく、指導者となれるメンバーもいないから自信もない、という状態でしたので、4月の時点で私達にできたことと言えば、有力な新人の獲得くらいでした。悲壮な決意で臨んだ勧誘活動は、3月から勧誘計画を立てたこと、また濱田研究室のメンバーにも手伝って頂いたことが奏功して、4月後半から徐々に部室をノックする学生が増えていき、連休中に行った新人歓迎合宿には6人もの新人が参加してくれました。

6月に入ってメンバーが定着してからは、北アルプス縦走へ向けての具体的な活動を始めました。まず、会としてのレベルを底上げするために、部室の備品管理、山岳雑誌やビデオなどの資料の充実、ジャンルごとに担当者を決めての勉強会、さらに、グループ別の体力トレーニングを行いました。7月末までモチベーションを下げることなく努力を続けた結果、編成した3グループの全員が無事に縦走を終え、内2つは合流も果たす



▲北ア縦走後、河童橋にて

ことができました。縦走中に接近・直撃した台風に伴い、計画を完遂することはできませんでしたが、計画面や縦走中の連絡手段、集団行動などにおいて多くの課題を残すことができたと思います。

冬山を終えて

副幹事長 中村達（理工3年）

1 冬山山行の目的

より困難な山に挑戦するため、さらには海外遠征の基礎の部分を知るために行った。そのために、年間を通じて活動することがそれらを可能にと思った。

2 活動内容

12月上旬に富士山で雪上訓練、下旬に北八ヶ岳、2月上旬に金峰・ミズガキ、そして3月下旬に南八ヶ岳に行った。金峰・ミズガキ以外はOBに指導をして頂いた。

☆南八ヶ岳（赤岳） 念願の赤岳は快晴で素晴らしい。頂上からの景色は360°の展望。富士は勿論、アルプスも見事な姿を見せてくれた。風も無く、天候に恵まれた。快晴下の稜線散歩、切れ落ちたナイフリッジの通過、沢筋を一人づつ間隔を空けて下降するなど、これこそ冬山、と思い描いていたことがそのまま実現したような山行だった。



▲赤岳頂上にて

☆雪上訓練の内容 各種の体位での滑落停止、スタックカートでのビレイ法、深雪をみつけてラッセルなどを練習した。技術を高めることは、難度の高い山を登る自信につながらと思う。今後さらに上達させたい。

3 訓練から得たもの

まずはやはりアイゼン、ピッケルの使い方である。これは冬山登山、海外遠征では必須の技術である。それからリーダーの指示の元で動くということが、どれほど重要であるかもよく分かった。このような事はやはりある程度厳しい条件下でないと分かりにくいだろう。その他にも夏山では得られない物が得られたと思う。

4 今後の活動について

今年は冬山1年生という事もあって、ほとんどの山行にOBに参加して頂いたが、今年度は自分達で南アルプス辺りに行けるほどになりたいと思っている。海外遠征という話も冗談ではなく少し真面目に考えてみようとする人も少しずつ増えている。2年後にはヒマラヤの頂にメンバーが立つかもしれない。しかしながら、自分達で下の世代を育てる努力もしなければならない。自分達がレベルアップしたとしても、自分達だけでは意味がないからである。

言うまでもなく、次のステップを踏むことができたのはOBの指導のおかげである。今後の山の会の“高みへのステップ”のためにOBにはこれからも指導をよろしくお願いいたします。

2004年度の抱負

幹事長 藤井明（社会科学部3年）

山の会は、現在14名で活動しています。伝統あるサークルですから、物足りないと思われる方も多いと思います。しかし「いつかはヒマラヤへ!」「アイスクライミングしたいけん」と叫ぶ熱血漢もいますし、「親不知から槍に行きたい」「一ノ倉を登りたいですね」と考える人や「植物が好きです」という人もいて、それぞれが山に関心を寄せている現状を微笑ましく思います。

私たちはまだ、冬の日本アルプスを踏んだことがなく、冬に南アルプスに行くということが自然と出てきました。その中で、自分たちの実力などを考えると塩見岳が浮かんできました。

個人山行については上級生の全員がリーダー経験をつとめるように積極的に計画を作って下級生に楽しんでもらえるようにしていこうと思います。

OB方や先輩方の御尽力に感謝いたします。これからもよろしくお願いいたします。

2004年新年会返信はがきから

- ・昨年秋には金精峠から根名草山 (2329m) を経て奥鬼怒の日光沢温泉へ2泊3日で行って来ました。今年は70歳、何か記念碑的な山行をしたいと思っています。(高橋啓二 S.33)
- ・昨年はカナディアン・ロッキーをトレッキングしました。(三ツ木信二 S.33)
- ・最近釣りをはじめました。田園風景のなかをマブナを追って釣り歩く「探り釣り」です。釣り上げた数はあまり問題ではなく、田園情緒をたのしむのが中心です。(鈴木唯雄 S.33)
- ・世の中の流行に遅ればせながら、カービングスキー板を新調しました。この冬は多めにスキーを楽しむつもりでおります。(上田敦子 S.34)
- ・月に一度位は山に出かけています。今年の夏は、残された北海道の百名山トムラウシ、十勝岳、幌屈岳、後方羊蹄山に行く予定です。(本橋隆夫 S.35)
- ・一昨年チベット、昨年スイスハイキング(3度目)。2月下旬にはヒマラヤの写真を撮りにネパールへ行ってきます。(梅田浩美 S.36)
- ・仕事の方は去年の5月に辞めました。正月には八ヶ岳(阿弥陀南稜)へ行ってきました。雪の山は本当にすばらしい。(水村靖 S.37)
- ・毎日変わらない生活をしております。先日はペルーのインカの遺跡を見してきました。高山病にやられ年を感じました。(弘海都子 S.37)
- ・退職してから3年目、なんとかやっています。冬はクロスカントリースキーをやっています。今年冬2月には30kmのスキーマラソンに出るべくトレーニング中です。(藤井栄二 S.39)
- ・昨年は毎月1回のペースで行きたい山を歩くことができました。今はスキーで下旬より蔵王、奥志賀、富良野と行く予定です。(井上昌代 S.39)
- ・昨年は尾瀬、白馬等のトレッキング。今年は沢山登りたいと思っています。(長谷川徹 S.39)
- ・勤務日以外は相変わらずゴルフ、野球、テニスなど続けています。そろそろ山のトレーニングを始めようかなと思い始めていますが…。アルコールは弱くなりましたが、これも続けています。(山崎征彦 S.39)
- ・各地の市民マラソン(5~10km)に年3~4回参加しています。(勝俣達郎 S.39)
- ・まもなくサラリーマン生活終了の予定です。体力に見合った低山でも出かけてみようと思っています。(稲吉豊 S.40)
- ・昨年4月リタイアし、今はやせることに努力しています。(宮尾久志 S.40)
- ・15年11月22・23日、松木沢から国境平、皇海山、庚申山と進みました。テント、ザイル等荷物が重く苦勞しました。(海野俊男 S.41)
- ・昨年還暦を迎えました。自宅で仕事をするかたわら、時々現役生と山行をともにしています。昨年12月には富士山と八ヶ岳に行ってきました。機会があれば山行にご一緒下さい。(渡辺征二 S.41)
- ・時々山へ行ってます。昨年は吾妻連峰、爺ヶ岳、三ツ峠、節刀ヶ岳、丹沢、等々。1月は八方尾根にスキーに行きます。(松村幹雄 S.48)
- ・機会を見ては韓国の山を楽しんでいます。昨年から地元大学・宇部市と早稲田との連携に取り組んでおり、先日調印を行いました。(西山一夫 S.48)
- ・心機一転、雪が消え春の訪れとともに、近くの山々に登ることから鍛え直したいと決意を新たにしている今日このごろです。(小竹正雄 S.50)
- ・先日、5歳になる息子を連れて井川にあるスキー場で雪遊びをしてきました。雪をまとった南アの山々も見えて景色は最高でした。(徳永義孝 S.55)
- ・子どもが2人ともようやくひとりでスキーができるようになりました。(里方昭彦 S.58)
- ・年末は西穂に行ってきました。西尾根という、ロープウェイの1本北側の尾根をルートに取りましたが、我々1パーティーのみで、静かな山行を楽しめました。(内山正一 S.59)
- ・名簿で同期の高橋君の近況が分かりました。ありがとうございます。私は市役所の市民課に勤務しています。昨年登った山は会津若松市内の大戸岳と小野岳です。(荒井英明 H.5)
- ・資格の勉強に励んでおります。(羽野寛子 青学H.7)
- ・奈良で大阪とを結ぶ南阪奈道路の舗装工事をしています。3月開通に向けてがんばっています。新年会に行けなくて残念です。(門田憲幸 H.15)

世界の山 10選

斉藤 雄二

この寄稿文（紀行文ではない）は私の見た世界の山が主題です。登ったのではありませんので、誤解なきよう事前にお伝えしておきます。

初めに私の山のキャリアについて少し触れておきます。私の山登りは高校1年に始まり、大学を出て社会人となって終わりました。

最後の本格的山登りは、経済研究科修了時（昭和43年3月）の、山の会の厳冬期の槍、穂高でした。本隊は抜戸尾根から笠に登り、そこから槍、穂高に縦走するもので、私は中崎尾根を登る槍、穂高のサポート隊にOB・コーチとして参加しました。

この山行では、旧人二人が槍の肩直下の氷雪斜面で滑り、怪我をして、結局穂高までは行けなかったのですが、晴れ間を見つけて、サポート隊を含め怪我人除きほぼ全員が、槍には登りました。幸にして怪我した二人とも後遺症無しで済みましたが、OB・コーチとしての責任を感じ、私の最後の本格的な山登りは、ほろ苦く終わりました。

さて会社に入ってからとの山との関わりですが、社会人ともなり、結婚もすれば危険な山登りは敬遠されることになり、山に登るのではなく、山を見るのを趣味とするようになりました。

私の勤めた会社はホンダで、35年間主に海外事業を担当しました。海外の仕事をしたおかげで、海外の山を見る機会に恵まれました。時系列で追って、独断と偏見で、私が見て感動した世界の山を10箇所選んで報告致します。

- 1) 若い頃オセアニアを担当し、最初の海外出張はニュージーランドでした。ここの南島にサウスアルプスがあり、週末に最高峰のマウントクックを見にゆきました。ここにはセスナでマウントクック直下の氷河まで行く観光サービスがあります。氷河を見るのも歩くのは初めてで大変幸福でした。
- 2) 最初に駐在したのが、オランダでした。夏休みに家族でヨーロッパアルプスに行きました。車で1日走ればスイスです。印象に残る山々は、凄惨なアイガー北壁、明るく天に聳えるマッターホルン、エギューデミギの針峰群と真っ白なモンブランです。
- 3) 同じオランダ駐在時代、販売店の招待旅行でアフリカのサハラに行きました。ライオンや象やキリンがサバンナで生息しています。その自然な動物達の背後に、雪を戴いた雄大にして穏やかなキリマンジャロを見ることが出来ました。
- 4) 次に駐在したのがインドでした。ネパールもテリトリーでしたので、よくカトマンズまで行きました。このカトマンズの小高い丘から見るヒマラヤは正に絶景で、震えるほど感動しました。エベレストまで100キロ以上ありますが、頂上を確認できません。近くにはマナスル、ヒマールチェリ、アンナプルナが迫ってきます。
- 5) 同じインド駐在時代によくカシミールまで行きました。首都シュリナガルからしばらく奥地に入ると、高度3千メートルの地に小奇麗な観光地があります。この地

から魔の山ナンガパルバットを見ることが出来ました。カシミールヒマラヤでの青く光る秀峰で、裾野は広く天に向かって聳え立っています。



- 6) 次に駐在したのはイギリスでした。休日に、ロンドンから車で「The North」の標識に従い10時間程走って、スコットランドの山岳

▲ナンガパルバット

地帯を見て回りました。スコットランドの山々はせいぜい1千メートルぐらいの高さですが、氷河に削られ急峻で、天気が悪くいつもガスに覆われているので、荒涼としていて迫力があります。

- 7) 次の駐在はアメリカでした。アメリカで最大の山はアラスカのマッキンレーです。野生動物の宝庫であるデナリ国立公園から見たマッキンレーは、でかくて真っ白でした。山が近くて高度差があるので頭を上げて頂上を見ることになります。ヒマラヤと良い勝負かと思います。
- 8) アメリカではありませんが、カナデアンロッキーは手ごろです。最高峰はピラミッド型のマウントロブソンで、4千メートルあります。基部から全貌を見ることが出来ます。氷河が至るところにあり、氷河へのアクセス、トレッキングが容易なことが特徴です。
- 9) アメリカの西海岸にはシェアラネバダと呼ばれる山脈があり、ここにヨセミテという山域があります。今や氷河はありませんが、氷河で半分削られたハーフドームや、1千メートルの一枚岩のエルクキャップテンがあります。爽快な岩登りが出来そうです。私にはもう無理ですが。
- 10) 同じアメリカに山と言えるのか疑問もありますが、コロラド川沿いに大変魅力のある国立公園があります。ポピュラーなのがグランドキャニオンでアーチーズやモニュメントバレーもあります。ここではトレッキングも出来ますが、以外な岩山で鎖とか柵とか身を守る物がないので怖く感じるがあります。

番外編で日本の山は穂高岳と剣岳が双壁だと私は思います。涸沢や剣沢で寝ころんで空を見上げると本当に自然に抱かれていると思ったものです。日本の山の弱点は氷河のないことです。しょうがないことです。

以上で私の寄稿文（紀行文ではない）は終わりにさせていただきます。

東京都山岳連盟へ加盟の報告

稲門山の会幹事 渡辺征二

一時衰退した現役生の山行活動も軌道に乗りつつある中で、各種講習会への参加と万に備えて遭難共済への加入を目的として、東京都山岳連盟に加盟しました。

この事により、OBの方々も団体扱いで加入することが出来ますので、ご検討下さい。

1 都岳連遭難共済の概要

- ・ 共済内容は遭難共済金、死亡見舞金で、捜索／救助／遺体回収に特化
- ・ 雪山、岩登りを含む
- ・ 海外特約（追加）も可能
- ・ 山岳特有の疾病（高山病、熱中症、寒冷傷害、雪盲）、中高年に多い病気（既往症、持病、心臓発作など）に起因する遭難も対象
- ・ 共済の加入期間は毎年4月～翌年の3月を1年とする（途中加入でも翌年3月迄）
- ・ 登山計画書の事前提出が必要（様式は別途）（現役は幹事長へ、OBはOB会へ）
- ・ その他、詳細は、お問い合わせ下さい。

2 遭難共済金の種類

	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
遭難共済金	150万円	200万円	300万円
死亡見舞金	10万円	10万円	10万円
掛け金(年)	4500円	6000円	9000円

共済の加入期間は毎年4月～翌年の3月を1年とする。（途中加入でも翌年3月迄）

3 都岳連への申込み

山の会として取り纏めて手続きしますので、加入希望者は小生宛に「氏名（フリガナ）、生年月日、性別、共済タイプ（ABC、海外特約の有無）」を郵送、FAXまたはMAILでご連絡頂き、所定の掛け金を下記の口座に振り込んで下さい。

（稲門山の会 都岳連連絡窓口 渡辺 征二）

連絡先：〒302-0001 茨城県取手市小文間5160-153

電話／FAX 0297-77-8083

E-mail: fire@d2.dion.ne.jp

振込口座：

三井住友銀行 取手支店 総合口座 口座番号 6807981

口座名義 渡辺征二（ワタナベセイジ）

WMS ハイキングのご案内

期日 2004年6月19日(土曜日) 小雨決行

場所 高尾山ハイキング 約3時間のハイキング

集合場所・時間 午前9:00 JR「高尾駅」改札口付近に集合

装備・食事など 昼食・おやつ・水筒・雨具など各自で準備願います。

予定ルート J R 高尾駅北口→小仏バス停→景信山登り口→景信山→小仏峠→城山→高尾山山頂
→1号路→高尾山駅→清滝駅→J R 高尾駅北口

参加申込 あらかじめ下記の幹事役にメール・はがきなどでお知らせ下さい。

事前申し込みなく当日集合場所に来られても問題はありません。また集合時間を過ぎた際は先に出発しますのでご了承下さい。

担当幹事 住所などはOB会の住所録を参照下さい

	E-Mail Address	携帯電話番号
松村啓之亮	kmatt@mvj.biglobe.ne.jp	090-3525-1638
井村英明	imurahide@yahoo.co.jp	090-5822-9539
新井昭夫	arai-a@itcchem.co.jp	
渡辺征二	fire@d2.dion.ne.jp	
笠原 豊	kasaharaani@yahoo.co.jp	

稲門山の会のホームページのご案内

稲山会通信第6号(2001年12月1日発行)でも案内済みですが、「稲門山の会のホームページ」が開設されています。是非、ご利用下さい。今回の第10号の稲山会通信の編集に当たっても、HPへの掲載分との二重は行わないように注意しました。しかし、重要なハイキングの案内と、東京都岳連への加盟に関しましては掲載しました。HPにも紹介されています。

HPはOBの卯月さん、笠原さんのご努力によって維持、メンテナンスされています。現役、早稲田大学のHPにもリンクされています。「会員のページ」は会員専用で、「掲示板」があり好きな事を書き込めます。是非活用下さい。

稲門山の会ホームページのURL

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~wms/index.htm>

IDは tosanikai パスワードは ichimura です。但し、会員外には知らせないで下さい。

役員会報告

- 開催日、場所：2004年3月9日、大隈会館
- 出席役員 市村、井村、大国、卯月、早川、松村、関根、鈴木(明)、笠原、渡辺(征)、新井
- 議題
 - ・50周年記念行事：井村：準備委員会(委員長：井村、委員：市村、松村、新井)を編成して行事、内容を決定して行く。
 - ・メールの配信範囲に関して討議。
 - ・山岳保険と東京都山岳連名加入の報告
 - ・稲山会通信の発行：第10号の発行、6月までに発行する。
 - ・2003年度会計報告
 - ・今年度の企画：松村が幹事で6月にハイキングを実施
 - ・現役アドバイザー(コーチ会)制度：若手OBの参画を図る。
 - ・本年度の現役新人の募集について

役

員

会

よ

り

・ 会計報告 (2003 年 1 月～2003 年 12 月)

摘要	収入	支出	残高
(収入)			
繰越金 (預金・現金の合計)			2,069,307
年会費納入	726,000		
新年会費	214,000		
利息	71		
(支出)			
新年会支払い		294,000	
新年会二次会現役分		34,380	
インターネット基本料		15,756	
現役交歓会及び補助他		100,000	
現役貸し付け (テント購入費)		100,000	
役員会 (年 4 回)		37,300	
名簿・案内状・稲山会通信作成及び発送仮払い		350,000	
遭難対策費定期へ		1,000,000	
振り込み代及び雑費		30,503	
合計	940,071	1,961,939	- 1,021,868

残高 1,047,439

遭難対策費 (2003 年 12 月現在)

2,084,199

預金残高	郵便局 (2003 年 12/13)	859,428
	みずほ銀行 (2003 年 12/30)	188,011
	郵便局定期 (遭難対策基金)	1,000,000
	郵便局定期 (遭難対策基金)	1,000,000
	新光証券太陽MMF	84,199

平成16年 5 月 10 日

以上ご報告申し上げます

会計 関根聰一郎

編集後記

第1号の発行が1998年6月でした。丁度6年になります。自分で書いた、第1号の編集後記を読み返して、恥ずかしくなりますが、これは、早稲田で山の会に入った時から同じだなと思いました。何と成長の無いことか。この、第10号の発行まで来れたのは、一重に、編集から印刷、発送までの労を取ってくれている、名達さんのお陰であります。深く感謝致します。通信の発行の打ち合わせで、名達さんと飲みながら話しましたが、その動機は、しっかりしたOB会が継続していて、輝かしい先輩達の言動に敬意を表しているからであります。それを、是非とも継続して、「人は変われど、仰ぐは同じ山の会」としたいものです。又、何年かたったら、恥ずかしい思いをすのでしょう。もう、いいや。恥も生きる大きな糧だ。

今回は、「世界のホンダ」で海外経験の長い、斉藤雄二さんから原稿を頂きました。紙面の都合で、お願いして、一部表現を換えて頂きましたが、それでも、日本の山と世界各国の山との対比が顕著で非常に興味をそそられます。

新井昭夫